

**先端研究拠点事業—国際戦略型—**  
**「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」**  
**セミナー・シンポジウム 派遣報告書**

2013 年 8 月 15 日

氏名(ふりがな)	藪中 俊介 (やぶなか しゅんすけ)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	京都大学大学院理学研究科相転移動力学研究室
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	博士課程三年 (荒木武昭准教授)
メールアドレス	yabunaka@scphys.kyoto-u.ac.jp
電話番号、FAX	0742-48-8627

セミナー・シンポジウム名	7th International Conferenre Engineering of Chemical Complexity
場所 (国名・都市)	Hotel Hohe Duene(ドイツ・ヴァーネミュンデ)
派遣期間	2013/6/09-2013/6/14
セミナー等の日程	2013/6/10-2013/6/13
URL	<a href="http://www.bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/">http://www.bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/</a>

ドイツ、ヴァーネミュンデで開かれた 7th International Conferenre Engineering of Chemical Complexity に出席し、マイクロ相分離系のレオロジーに関する研究発表を行いました。この研究会では、アクティブマター、化学反応系、細胞の自己組織化、非平衡揺らぎ、ネットワーク理論、ソフトマターなど非平衡統計力学、非線形物理学に関わる幅広いテーマのセッションが行われました。私は、ソフトマターのセッションで、配向自由度を取り込んで、マイクロ相分離系でのラメラ相の線形の構造レオロジーを記述する試みについて講演を行いました。いくつか印象に残っている講演を挙げると、S. Fraden 氏の化学反応を介し相互作用し合う液滴のネットワークに対する実験、秦氏のネットワーク上でのチューリングパターンの理論、R. Seemann 氏の自己駆動する液滴集団に関する実験の講演などです。

また、ポスターセッションで、アクティブ粒子のクラスター生成に関する研究に関して O. Pohl 氏と、金属表面上での化学反応に関して、長峰氏と議論できたのも印象に残っています。この会議での講演のテーマの多くは、私が発表を行った、非平衡ソフトマターの研究とは、必ずしも大きく重なっては居ないのですが、化学反応に関わる非線形物理の研究の話を多く聞くことができ、非常に有意義だったと思います。